

を掌中に丸めて例の十二萬圓は既に出来たり、幸ひ汽車中に
 て出逢ひし債權者の一人、これも一旦は不意に打たれて驚き
 しがまた忽ち取返して其川瀬庄平を逆寄せの擒にしつゝ果
 は味方に引入れたり、いざや此上は一萬千里の勢ひに岩も石
 もあるものかと、宛がら疾風の如く馳歸つたる雄三郎、まづ
 二人の兄が面前に約束の十二萬圓を積重ねて、士形人同然に
 小指の頭より捻りいさせしもの、但し小兒が弄ぶ玩弄紙幣に
 あらずとぞ笑ひぬ。

流石に二人の兄も思はず顔を見合せて驚きながら更に一句の
 言葉さへなき面盤を、ざるく左右に見分けつゝ、「こりやア
 決して徒に自分の手腕を誇るでもなく、また兩兄に對する意
 地でも何でも御座いませぬ、たい雄三郎が此際、つまり澤田
 家が存亡の危機一髪に追つた今日、いさゝか言行一致の證據

を御覽に入れて、なるほど少しは物の相談敵手に仕ても宜い
 奴といふ事を御承知下さるべきための小手えらへ、いはゞ試
 験です、ついでには改めて申しますが、今後いよく一家の聲
 理上、細大となく打明けて、この雄三郎にも相應の活動場所
 を下さいますせうね」「いや恐れ入った、我々二人の兄を差措て
 父が最後に汝を招いた深意も、こゝに始めて了解したから」
 「なアに貴兄、さう俄かに仰しやつては却て困りますよ、ま
 かしともかくも私を帷幄の參謀として、やはり外面は兩兄の
 受持役で、さア勇氣一番、ぐつと胸を押据ていたたきたいで
 す、父が残された二百萬の負債を十層倍の二千萬にして、我
 々兄弟三人が終生さらに被統の尾を見せないといふほどの勢
 ひで、どうか必死の御奮發を願ひます、つきましては十三件
 の債主中、わけて評判の手剛い叔と聞及んだ横濱の東洋商會、

つまり此度の雄三郎が引當てました十二萬圓の債主、かの川瀬庄平も數日前すでに逆寄の生捕にして、我々が藥籠中の物にしましたから、まづ戦國の旗色も案外、悪くはなからうと考へます、そこで近日その川瀬と密談の上、十三件の債權者、二百萬圓の生靈を悉く一時に呼寄せて、此方から潔く戦端を開く決心ですから、萬事その時に動せざるの覺悟が第一、もし最初の合戦に打勝たれば、騎虎の勢ひに乗じて敵を追ふべき餘勇を其まゝそつと内に蓄へ、まづ長男の貴方に至急、細君を迎へるの必要があります、ついで次男の貴方、心ならねど私も早婚の弊を承知の上で娶りますから、此ところ兄弟三人が浮世の俗に従うて三組の夫婦を作つた上、家を三軒に分けて心は益一致協力の活働、さらに屈せず撓まず、世間の體の外面は時に合し時に離れて互ひに氣脈を通じながら千變

萬化の進退、むしろ端た金を持って乾燥無味なる人世に眼前の天下泰平を唱ふよりは遙かに勝つて面白いですせ、もし萬々一、千慮の一失、過つて再び世に出づることが出来ないといふやうな事でもありませんやア、その時こそは私一人が儘かに脊負つて立ちますから、兩兄は御安心なすつて、一意専心にこまでも貫いていたいたいで、はゝゝゝゝ斯ういふもの、これが數年の後、寢物語の笑ひ草にした心地は、どうでせう、男子の快事こゝだらうと思ひますよ、はッはゝゝゝゝ

其四十一

世の常と人の情に於て公然の事は寧ろ忘れ易く秘密の事は却て知り易く、さしも磐石の礎と聞えたる澤田家の内證も、い

つしか門戸を出で、商業界の疑問となり、果は一二の新開紙にさへ面白からぬ風聞の上りしは、なかりしが、たま〜兄弟三人の中、その末弟に生れたる雄三郎が亡父に勝りし天生縦横の奇才と殆ど生死に關せざるが如き不敵の大膽を振廻しつゝ、二人の兄を高く兩手に捧げて一片の腸より絞りいだせし神算鬼謀、たくみに浮世の中堅を突破つて前後かよそ九年の間、化の皮も脱がず垂れし内證の尾も見せず、天晴れ物の見事に遺遂げて財産目録を作りし時には、父の殘せし負債の三倍半、七百萬圓の借金を何の苦もなく脊負うて冷笑ひながら、いち〜その債主を譜代の家僕に等しく願もて追使ふほどの名物男とぞなり濟しぬ。

雄三郎が中心點となつて二人の兄を左右の手車に乗せて働かせつゝ、わづか十年未滿の間に七百萬圓の負債を作りあげし

日夜の權謀術數、いち〜みづから筆記して果は大部の冊子となりしかば、これこそ實に商機神扉を開いたる奥の院、それこそ全く得易からざる財用の珍書とて、いづれも頼りに一見を乞ひしが更に許さず、深く藏して『有耶無耶日記』と題しつゝ、兄弟三人をり〜互ひに披きみて人ぞれぬ笑を合みながら、我家の子孫にさへ傳ふべき書にあらざると、誰か一人の最後に殘るものは必ず焼捨て、灰にすべしとの誓約を結びぬ。

長男の雄太郎は駿河臺に邸宅を構へて七人の子福者となり、次男の雄次郎は築地の本宅を其まゝ受けて男女二人の子を設け、三男の雄三郎は彼の東屋の娘お玉を妻として四十年來の友白髪まで、陸まじく添遂げしが、さらに一人の子もなく、老の夫婦が唯これのみを浮世の無念に啣ちぬ。

長男の雄太郎は五十二歳にして死し、次男の雄次郎は五十六

歳にして死し、三男の雄三郎は六十四歳の曉までも頭として
 壯者を凌ぐの大丈夫、例の『有耶無耶日記』も其身に持ちし
 が、これはどの男いかにして死際に忘れけん、焼捨て、既に
 すべき契約は兼てより聞きながら、流石に其人が多年の苦心
 惨憺を其まゝ筆記せるものなりとて、老の女氣に心弱くも人
 に秘して持傳へしを、いつしか盗みいまして、そと浪六に贈
 りくれしものあり、されば時に端然たる士君子の肩を揺め時
 に世の父兄を怒らせて、およそ太平無事の家庭に生れたる青
 年子弟の見るべきものならねど、他日を待ちて『三人兄弟』
 の本舞臺ともいふべき此『有耶無耶日記』を世に示さんとす。

三人兄弟後編(終)

明治三十五年八月十二日三版印刷
 全 三十五年八月十八日三版發行

三人兄弟後編
 著作權
 登録済
 定価金四拾錢

著 者 村 上 信
 發 行 者 兼 印 刷 所 青 木 恒 三 郎
 東京市日本橋區通一丁目拾七番地
 大阪府四區新町北通一丁目六十五番風敷
 電話西七八二番
 發 行 所 青 木 嵩 山 堂 印 刷 部
 大阪府東區心齋橋筋御坊町角
 電話西三五〇番
 發 行 所 青 木 嵩 山 堂
 東京市日本橋區通一丁目角
 電話西本局七八九番
 賣 捌 所 伊 勢 四 日 市 市 野 町 嵩 山 堂 支 店

小説新版豫告

毒 六 著

婦

續篇

一册

五人男 倉橋 幸藏 著

藏

後篇

一册

五人男 川上 三吉 著

吉

一册

五人男 吉田 雄藏 著

藏

一册

幸田 露伴 著

遊記

一册

奴之助 著

獅子王

一册

馬田 天外 著

文録男

一册

美 妙 著

小説 桃色絹

一册

美 妙 著

人 鬼

一册

水 陸 著

誰 が 罪

一册

松居 松葉 著

女 之 義 理

一册

眉 山 著

神 出 鬼 没

後篇

一册

武田 仰天 子 著

小 夜 千 鳥

一册

武田 仰天 子 著

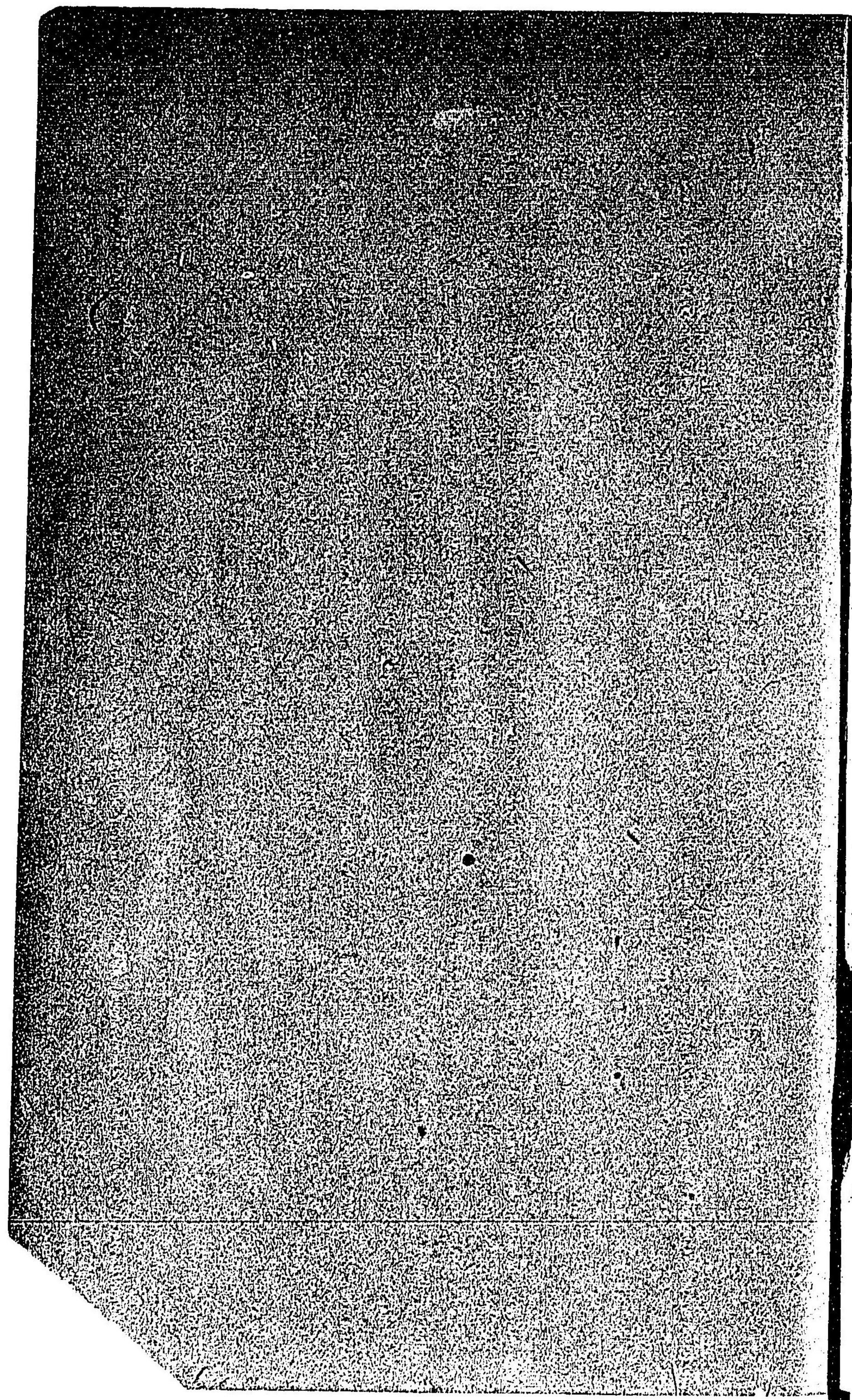
梅 若 心 中

一册

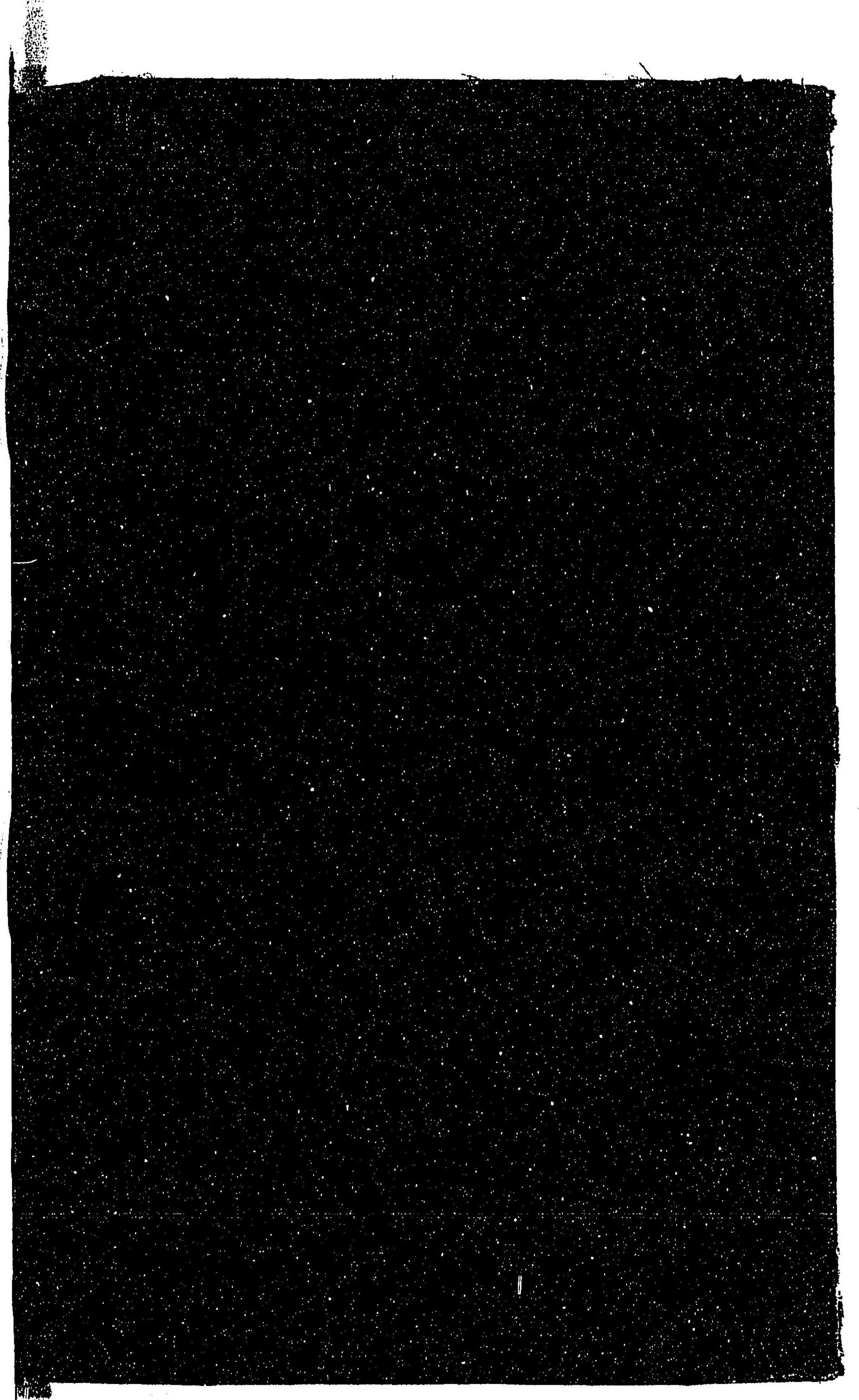
91
119

嵩山堂出版小説

全	全	全	鐵腸	無名氏	青軒	全	全	松葉
落葉のはとよせ	過去の政治	花間鶯	雪中梅	萬年娘	好男子	金賣吉次	女豪傑	金剛武者
一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊
天外	大華	青萍	全	全	全	全	全	鐵腸
文錄男	寶はむし	答問の観百合	闇夜鴉	玉手箱	啞の旅行	戦後の日本	明治四十年の日本	南海の激浪
一冊	一冊	二冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊
美妙	風葉	水陸	浪六	水陸	水陸	松魚	水陸	最近出版
女装の探偵後編	戀無常後編	空中飛行器後編	毒婦後編	秘密の使者	新俳優	若旦那	地中之秘密	
一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	



91
119



91
119

